

HISTORY

- 2005年 8月 新製品EMU-270、DIS-05を開発・発表
- 2005年 2月 JASDAQ上場
- 2004年 4月 韓国支店を開設
- 2003年 7月 第三者割当増資(資本金3億8,705万円)
- 2003年 4月 EMU-220A、海外に出荷開始
本社ビル移転(東京都新宿区)
- 1999年 1月 EMU-200を海外に出荷開始
- 1998年 12月 マスク用電子ビーム微小寸法測定装置EMU-200/300を開発・発表
ステンシルマスク検査技術(特許)を確立、発表
- 1996年 3月 テクニカルセンターを東京都狛江市から埼玉県所沢市に新設・移転
- 1986年 10月 電子ビーム微小寸法測定装置(ESPA-11)を開発・発表
- 1985年 5月 東京都新宿区(株)ホロンを設立(資本金3,300万円)

会社情報、IR情報は、
ホームページでご覧いただけます。



<http://www.holon-ltd.co.jp/>



HOLON
株式会社 **ホロン**

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F
TEL:03-3341-6431(代)
(JASDAQ:7748)

R100
この印刷物は古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。

株式会社 **ホロン**
HOLON

第21期 事業報告書
平成17年4月1日～平成18年3月31日

ホロンのものさしは
ナノメートル。
見えない世界を
測ります。



CONTENTS

- 株主の皆様へ 1
- 業績報告／業績ハイライト 2
- 事業内容 3-4
- 財務諸表(要旨) 5
- 株式情報、株主メモ、会社概要、役員 6

株主の皆様へ



代表取締役社長
富加津 好夫

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当期におきましては、当社を取り巻く経営環境はここ数年にない厳しい状況で推移し、その結果赤字決算となるなど大変厳しい年となりました。

当社は、研究開発型企业として、製品性能の向上・新製品の開発に努めてまいりました。今後も新しい技術の開発と探究心を持って装置を進化させ、提供していくことがホロンの使命であり、このことにより、人類の科学技術の発展に貢献し、価値を創造していくことが可能と考えております。

更なる製品性能の向上により市場競争力を強化し、企業価値を高めていくことに尽力していく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績報告

当期の概況

当期における日本経済は、世界的な原油価格高騰という景気に対するマイナス要因があるものの、自動車を中心とした好調な輸出及び個人消費の回復などに支えられ堅調に推移致しました。しかしながらエレクトロニクス・半導体産業は、プラズマ・ディスプレイ、液晶等の薄型テレビ、HDD/DVDレコーダー等デジタル家電の販売価格が、競争の激化により予想以上に下落し、携帯電話も普及の一巡により需要が低迷するなど苦戦を強いられました。

当社が製造・販売しておりますマスク用検査装置市場も、競争の激化により当社にとって厳しい環境になりました。

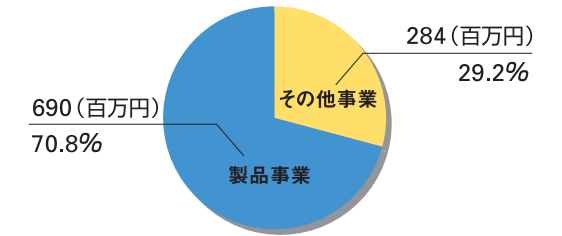
当社は、マスク用寸法測定装置として「EMU-270」を開発し、また、電子ビーム技術を活用して開発したマスク用欠陥装置「DIS-05」を発表し、販売を開始いたしました。

このような状況のもと、主力製品であるEMUシリーズを複数台販売いたしました。当期におきましては、当初計画していた経営成績を達成することが出来ませんでした。

その結果、製品事業の売上高は、前期比65.7%減少し690百万円となりました。その他事業につきましては、売上高は前期比20.6%増加の284百万円となりました。

上記の結果、当期売上高974百万円(前期比56.7%減)、経常損失は143百万円(前期経常利益527百万円)、当期純損失は260百万円(前期当期純利益33百万円)となりました。

売上構成比



次期業績予想

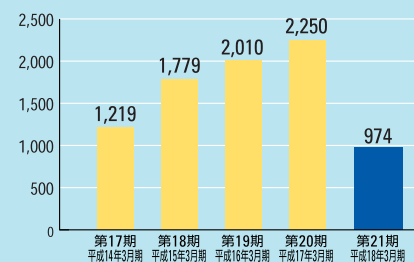
半導体メーカー等は常に新しい技術開発競争にさらされており、その中において、半導体検査装置の重要性は益々高まっていくものと考えております。今後も長期的には、微細化の進行により当社製品を取り巻くフォトマスク検査装置に対する需要は、マーケットの変動はあるものの次第に増えていくものと考えております。

しかしながら、当市場は企業間競争が激化しており、当社も製品性能の向上、企業体質の強化を図っていく所存であります。次期業績見通しは引き続き厳しいものになると予想しております。特に中間期においては、65ナノ対応の製品が一巡したのものとされており、一層厳しいものになると考えております。

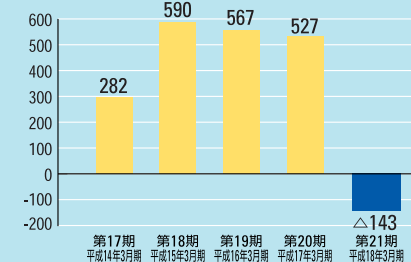
次期業績につきましては、売上高15億20百万円、経常利益76百万円、当期純利益74百万円を計画しております。

業績ハイライト

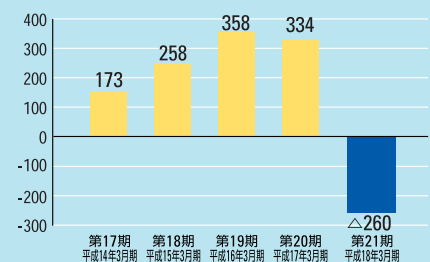
売上高 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



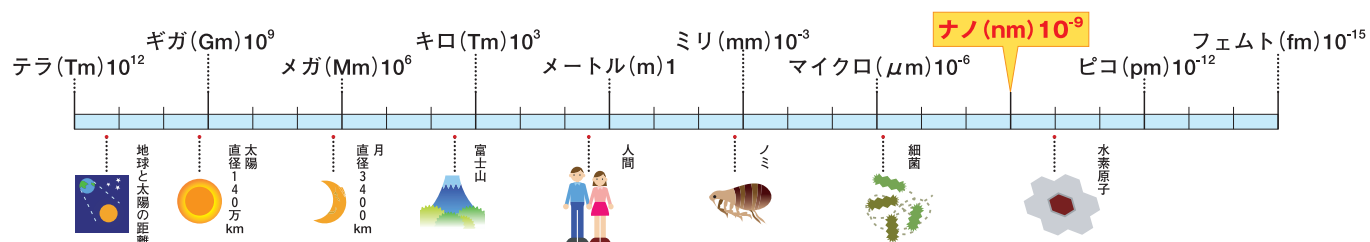
当期純利益 (単位:百万円)



半導体の回路寸法を、電子ビームによって測定する検査装置の開発、製造、販売、保守サービス

半導体の回路寸法はnm(ナノメートル)単位で表されています。

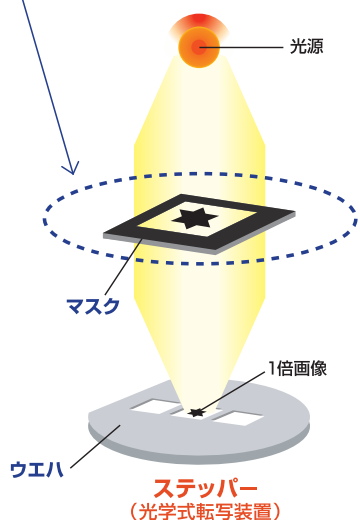
当社では、小型化が進むPC、携帯電話、カーナビゲーションシステム、デジタル家電などの機器に不可欠な半導体が、設計どおり作られているかどうかを検査・測定する装置を開発・製造・販売いたしております。



製品 EMUシリーズ

当社は、半導体デバイスの製造過程で使用されるマスク及びウエハが正しく設計されているかを電子ビームを使用して、検査・測定する装置を製造しております。当社は、マスクCD-SEMのパイオニアであり、EMUシリーズは世界でも最も多く採用されているマスク寸法測定装置です。

この部分を検査・測定いたします。



半導体の製造過程の中でも中核となる「フォトリソ」プロセスに使用される光学式転写装置。写真に例えるとマスクはネガフィルム、ウエハは印画紙に相当します。

EMU-Naviアプリケーションをつけることによりレシピ(手順)作成の必要がなく、自動計測が可能

測定作業の効率化



新製品の紹介

微小寸法測定装置 EMU-270

EM-250/260(65nm対応)の後継機種、45nmに対応するEMU-270を開発いたしました。より厳しくなるチャージアップ対策として新たに「wind方式」を採用し、エッチング後のレジストマスクを含むすべてのマスクを安定して計測でき、測定再現性などの性能を向上させました。

超解像欠陥検査装置 DIS-05

DIS-05は、設計パターンとマスクに描画されたパターンの違いを検出したり、マスクに描画された同一パターンの比較を行うことによって形状の差を検出し、欠陥の有無を判定する装置です。当社として、従来にはない新たな市場を狙った新製品です。

当社の事業領域



当社の今後の展開

1. EMUの強化

- マーケットシェアの回復
- 製品力の強化
競合他社を上回る性能を実現
- 営業力の強化
顧客ニーズへの対応を強化

2. 事業構造の転換

電子ビーム技術をコアとし、既存の事業領域であるマスク、ウエハ以外の事業領域も対象に加える。

今後の市場動向



※ユビキタス(ラテン語):いつでも、どこでもの意味

財務諸表(要旨) (単位:百万円、単位未満切捨)

貸借対照表

| 科目 | 前期 | 当期 |
|-------------|--------------|--------------|
| | 平成17年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 2,549 | 2,059 |
| 現金及び預金 | 910 | 844 |
| 受取手形 | 277 | 10 |
| 売掛金 | 466 | 157 |
| 有価証券 | 484 | 304 |
| その他 | 410 | 745 |
| 貸倒引当金 | — | △3 |
| 固定資産 | 374 | 368 |
| 有形固定資産 | 253 | 300 |
| 無形固定資産 | 1 | 5 |
| 投資その他の資産 | 119 | 62 |
| 資産合計 | 2,923 | 2,428 |

損益計算書

| 科目 | 前期 | 当期 |
|----------------|----------------------|----------------------|
| | 平成16年4月1日～平成17年3月31日 | 平成17年4月1日～平成18年3月31日 |
| 売上高 | 2,250 | 974 |
| 売上原価 | 1,096 | 538 |
| 売上総利益 | 1,153 | 435 |
| 販売費及び一般管理費 | 623 | 588 |
| 営業利益(△損失) | 529 | △152 |
| 営業外収益 | 17 | 12 |
| 営業外費用 | 20 | 3 |
| 経常利益(△損失) | 527 | △143 |
| 特別損失 | 0 | — |
| 税引前当期純利益(△純損失) | 527 | △143 |
| 当期純利益(△純損失) | 334 | △260 |

貸借対照表

| 科目 | 前期 | 当期 |
|-------------|--------------|--------------|
| | 平成17年3月31日現在 | 平成18年3月31日現在 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 617 | 508 |
| 固定負債 | 233 | 208 |
| 負債合計 | 850 | 717 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 585 | 585 |
| 資本剰余金 | 529 | 529 |
| 利益剰余金 | 957 | 595 |
| 資本合計 | 2,072 | 1,710 |
| 負債及び資本合計 | 2,923 | 2,428 |

キャッシュ・フロー計算書

| 科目 | 前期 | 当期 |
|------------------|----------------------|----------------------|
| | 平成16年4月1日～平成17年3月31日 | 平成17年4月1日～平成18年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △382 | △32 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △36 | △77 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 395 | △139 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1 | 3 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △22 | △246 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,417 | 1,395 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,395 | 1,149 |

株式情報、株主メモ、会社概要、役員

株式情報

平成18年3月31日現在

| | |
|--------------|----------|
| 会社が発行する株式の総数 | 102,000株 |
| 発行済株式の総数 | 25,520株 |
| 株主数 | 3,410名 |

大株主

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------|--------|---------|
| 富加津 好夫 | 4,565 | 17.89 |
| 株式会社エー・アンド・デイ | 2,698 | 10.57 |
| 宮内 栄 | 790 | 3.10 |
| 新田 純 | 680 | 2.66 |
| 生江 隆男 | 500 | 1.96 |
| 富加津 英夫 | 500 | 1.96 |
| 穴澤 紀道 | 435 | 1.70 |

株主メモ

| | | |
|---------|---|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで | |
| 定時株主総会 | 毎年6月 | |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 | |
| | 期末配当金 毎年3月31日 | |
| | 中間配当金 毎年9月30日 | |
| 売買単位 | 1株 | |
| 株主名簿管理人 | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 | |
| 同事務取扱所 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-78-2031(フリーダイヤル) | |
| | 同 取 次 所 | 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店 |

会社概要

平成18年3月31日現在

| | |
|-----|--|
| 会社名 | 株式会社ホロン(HOLON CO., LTD.) |
| 所在地 | 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル3F TEL:03-3341-6431(代) |

設立 昭和60年5月

資本金 5億8,595万円

代表者 富加津 好夫

従業員数 52名

事業内容 半導体検査装置の開発、製造、販売、保守サービス

役員

平成18年6月28日現在

| | |
|-------|--------|
| 代表取締役 | 富加津 好夫 |
| 常務取締役 | 穴澤 紀道 |
| 取締役 | 崎山 武美 |
| 取締役 | 松方 清彦 |
| 取締役 | 新田 純 |
| 取締役 | 安宅 正志 |
| 取締役 | 加藤 邦彦 |
| 取締役 | 東 祥弘 |
| 常勤監査役 | 高柳 新次 |
| 監査役 | 有賀 益千代 |
| 監査役 | 三澤 順一 |

※1:取締役 東祥弘は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 ※2:監査役 有賀益千代及び三澤順一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。